

未来への遺産

ミャンマーの

森と人びと



ミャンマー（ビルマ）は軍政から民政へと体制が変わり、今後、急速な経済開放・開発が見込まれています。

新興国としてミャンマーが秘めるビジネスの可能性に世界中が注目していますが、注目すべきはそれだけでしょうか。

その広大な森の奥には、半野生の使役ゾウが木材を運搬し人間と共に働く、東南アジアでも大変めずらしい林業の形態が残っています。そして、少数民族の人びとは森の恵みを得て、質素ですが豊かな暮らしを営んでいます。

その多様で豊穡な姿を紹介した写真集『ゾウと巡る季節』『ガイドー・ブガ』（いずれも彩流社刊）からセレクトした写真パネルと、少数民族の人々が使う鮮やかな服や日用品、森の人々が器用に作った道具やおもちゃなどを展示します。野生動物や植物など森のいのちと人びとが共に暮らす、ミャンマーの伝統的な姿をご覧ください。

【会 期】2012年8月27(月)～10月27日(土)

【展示会場】千代田区立千代田図書館 9階 ミニ展示コーナーほか

* 展示関連イベント *

ミャンマー（ビルマ）はどうなるのか——日本との関係から考える

講師：吉田敏浩さん（『ガイドー・ブガ』著者、ジャーナリスト）

根本敬さん（『ビルマ独立への道』著者、上智大学外国語学部教授）

日時：2012年10月12日（金）19：00～20：30（18：30開場）

会場：千代田図書館 10階 会議スペース

定員：25名（参加無料、事前申込不要、当日先着順）